
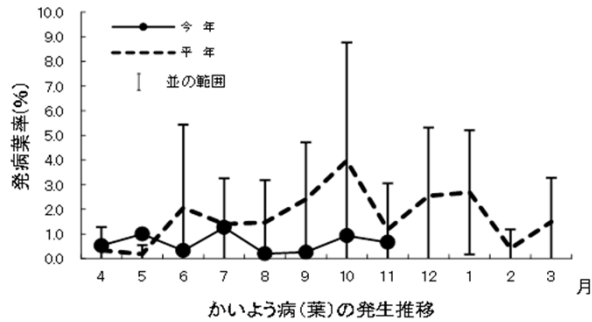


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
11月の発生量（現況）	並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

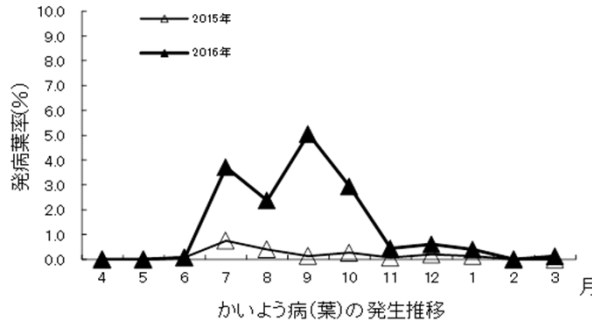
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月中旬の調査の結果、発病葉率は0.7%（前年0.4%、平年1.2%）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

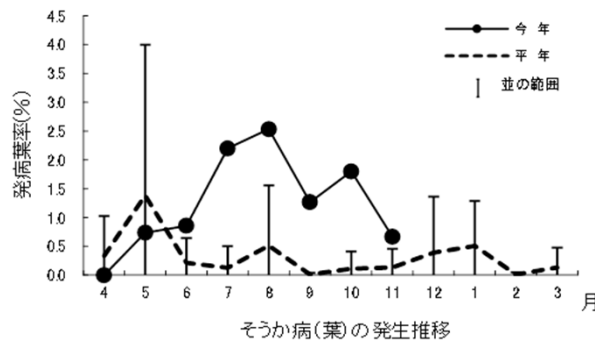
- ・ 罹病枝・葉などの病斑が翌年の伝染源になるので、除去に努める。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
11月の発生量（現況）	やや多		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、11月より発生量が増加すると考えられる。		

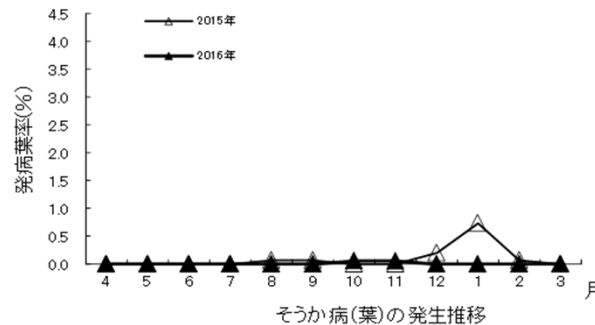
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月中旬の調査の結果、発病葉率は0.7%（前年0.1%、平年0.1%）と平年よりやや高かった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

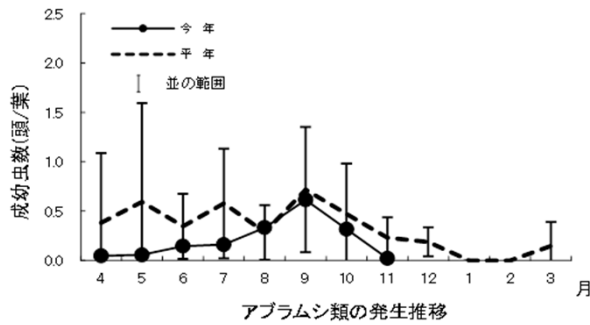
- ・ 罹病枝、罹病葉を除去し、伝染源を極力少なくする。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
11月の発生量（現況）	やや少		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

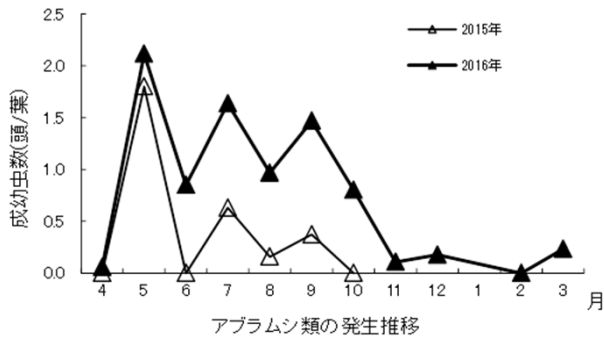
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月中旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数は0.1頭以下（前年0.1頭、平年0.2頭）と平年よりやや少なかった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。

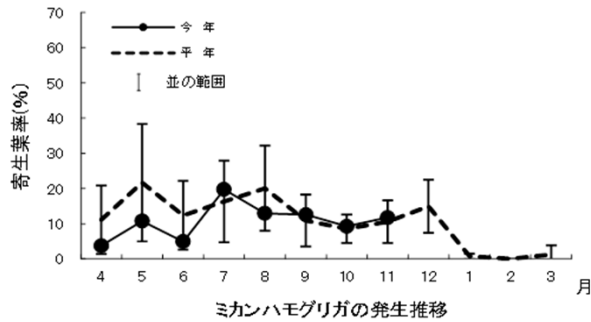


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミカンハモグリガ		
11月の発生量（現況）	並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

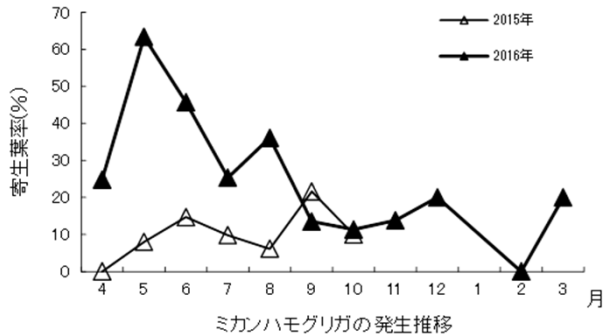
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月中旬の調査の結果、寄生葉率は11.8%（前年13.8%、平年10.5%）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

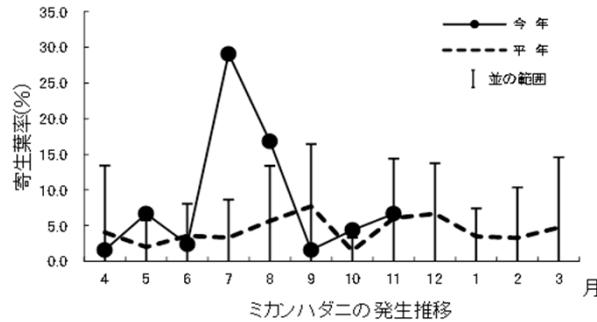
- ・ 本種による食害痕からかいよう病が発生しやすく、翌年の伝染源になるので、被害葉の除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
11月の発生量（現況）	並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

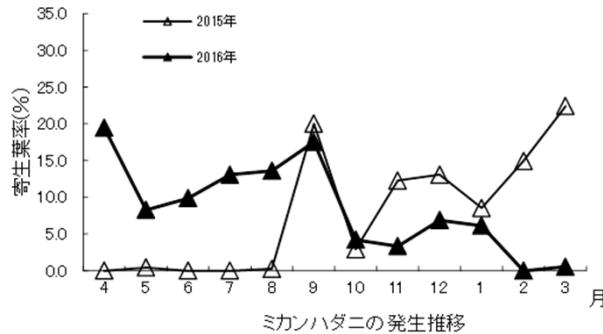
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月中旬の調査の結果、寄生葉率は6.7%（前年3.3%、平年6.1%）と平年並であった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状